

# 下野市立祇園小学校

## 1 学校課題

自ら考え解決する子どもの育成 ～音楽科・家庭科・体育科を中心に～

## 2 研究計画

本年度は、「言語活動」を各教科・領域全般において意識的に広めていく6年目として、音楽科・家庭科・体育科における思考力・判断力・表現力等の育成に取り組んだ。その中で自力解決能力と自己の学びへの自信をさらに深めさせながら、それぞれの教科の基礎的・基本的な知識や技能を伸ばしていけるように、評価規準の設定や評価の方法の工夫改善についても引き続き研究を進めた。この研究は、2つの方向から取り組むことにした。

### (1) 「言語活動を通して論理的思考力を高める～説明力を伸ばす～」

- ① 思考力・判断力・表現力等を高めるために課題に対して自分の考えをもち、筋道を立てて説明する活動を取り入れ、個々の考えをより確かなものにしていく。
- ② 音楽科・家庭科・体育科における学習内容から、それらの目標を達成するためにはどのような「言語力」が必要かを検討し、具体的な場面において言語活動が図られるように研究する。
- ③ 学習評価における観点「思考・判断・表現」において、評価規準や評価方法の妥当性・信頼性について検証を図る。

### (2) 「指導方法を工夫して基礎的・基本的な知識・技能を高める」

- ① 基礎的・基本的な知識や技能が習得できるように教育機器や教材を工夫する。
- ② 自力解決のための時間と場を設定して自分なりの考えをもち、「考えの交流」を通して思考の深まりや広がりが見られたりするよう指導を展開する。
- ③ 学習の主体者としての自覚をもち、主体的・協同的に学習できるよう問題解決的な学習を構成し実践する。

## 3 研究内容

研究は、全職員を大きく2つの部会に分けて取り組んだ。

### (1) 授業研究部

音楽科・家庭科・体育科ブロックに分かれ、学年で一つの単元や教材を選んで研究を進め、事前授業と公開授業を行った。教材研究の段階からブロック協働で行うとともに外部アドバイザーの参加を依頼し、助言を受けられるようにした。

<授業研究会>

ブロック	学年	日程	単元名・題材名	外部アドバイザー
音楽科	第1学年	10月19日	「いいおとみつけて」	・松本 敏教授(宇都宮大学) ・坂本順子指導主事(市教委)
	第4学年	6月26日	「かけ合いと重なり」	・坂本順子指導主事(市教委)
家庭科	第5学年	7月8日	「おいしい楽しい調理の力」	・人見久城教授(宇都宮大学) ・坂本順子指導主事(市教委)
	第6学年	11月24日	「まかせてね 今日の食事」	・鈴木秀子副主幹(総教センター) ・坂本順子指導主事(市教委)
体育科	第2学年	11月9日	「ゲーム たからとりおに」	・人見久城教授(宇都宮大学) ・稲見雄太指導主事(市教委)
	第3学年	9月18日	「めざせ！スーパーマン」	・竹田昌彦副主幹(下都賀教育事務所) ・稲見雄太指導主事(市教委)

## (2) 教材開発部

音楽科・家庭科・体育科において、必要な教材や教育機器の開発や準備と、利用しやすい保管・活用を進めた。

## 4 本年度の成果と課題

### (1) 授業の実践例と成果

#### ① 第1学年の実践例 音楽科「いいおとみつけた」

イメージする動物を4つに絞って提示したことは、学級全体が共通のイメージを持って話し合うのに有効だった。また、お気に入りの楽器で自由に表現させたことによりは、様々な奏法を積極的に試すことができた。楽器の基本的な演奏法を掲示したことは、各自で正しい奏法を確認しながら演奏の工夫をするのに有効だった。



#### ② 第2学年の実践例 体育科「ゲーム たからとりおに」

作戦ボードを使い、自分や鬼の位置を示すマグネットを動かしながら説明させたことで、みんなで考え話し合おうとする意欲が高まった。また、鬼ゾーンを2か所設けたことは、左右に素早く動くこと、スピードを変えて走ること、次の動きを予想して動くこと等の技能の向上に効果的だった。

#### ③ 第3学年の実践例 体育科「めざせ！スーパーマン」

児童から出された「ハッピーワード」や動きのポイントが分かる「ハッピーアクション」を提示したことは、活動中のコミュニケーションにおいて体育的語彙を増やすのに有効だった。また、よい動き方を教え合う時間を設けたことで、活動の意欲や技術の向上につながることができた。さらに、意図的なグループ編制は、クラスのよりよい雰囲気作りに役立った。

#### ④ 第4学年の実践例 音楽科「かけ合いと重なり」

表現の手段として様々な活動を設定したことは、自分なりに感じたことを表現するのに有効だった。児童の思いや感じたことを共有する場を設けたことで、楽曲への理解を深めることができた。また、楽曲の特徴的な要素を視覚化して示したことは、楽曲の仕組みを共有するのに有効だった。繰り返し楽曲を聴かせたことで、次第に音色の違いを聴き分けることができるようになった。

#### ⑤ 第5学年の実践例 家庭科「おいしい楽しい調理の力」

ペアや小グループでの活動を取り入れたことは、課題を見つけたり解決策を話し合ったりするのに有効だった。アクティブラーニングを取り入れたことで、自分たちの課題を解決するために、児童は進んでインタビューすることができた。上手にゆでた卵と上手にゆでられなかった卵の写真を掲示したり、動画を用意したりしたことは、卵をゆでる知識を高めるのに有効だった。

#### ⑥ 第6学年の実践例 家庭科「まかせてね 今日の食事」

ジグソー学習を取り入れて観察・試食→比較→考察を行ったことは、児童に主体的に学習活動に取り組みせるのに有効だった。また、食事3パターンの実物を提示し、試食させたことで、写真だけでは気付けない味付けや歯ごたえ、においなどの違いにも気付かせることができた。食べる人に合わせて、材料の切り方や調理の仕方、味付け、盛り付けを工夫して作ることを、実感を伴って理解させるようにしたことは、調理に関する基礎的・基本的な知識を高めるのに有効だった。

### (2) 課題

- ・体育科における思考・判断・言語表現は、体で表すことも含まれる。運動量の確保の上でも、無理に話し合いの場を持たず、ゲーム中のつぶやきを取り上げ広げていくことが必要である。また、児童に目的意識を持たせるために、児童にわかる言葉で評価規準を設け、知らせたい。
- ・音楽科では、音楽の語彙を増やし、それらを用いて自分の思いを表現していく経験を積ませていくような学習活動を進めていくことが必要である。[共通事項]については、6年間を通して段階を踏みながら継続して指導したい。
- ・家庭科では、授業で学んだ知識や技能を生かして家庭でも実践させることで、調理の基礎的・基本的な知識や技能を定着させていきたい。また、今後の実践につながるためには、写真や動画を活用したり、試食の品数を減らして比較を焦点化させたりする必要がある。